

仙台空港BCP（概要）



仙台国際空港

2020.3

仙台空港と自然災害

● 過去の災害と仙台空港BCPの位置付け

2011年3月11日 東日本大震災

仙台空港は津波によりほぼ全てのエリアが冠水しました。
幸い、お客様や従業員の命は守られましたが、約1700人がターミナルビル内に孤立しました。



▲津波により被災する仙台空港



▲ターミナルビル内で避難する様子

東日本大震災以降、仙台空港の運用に甚大な被害を与える自然災害は発生して
おりませんが、昨今では日本各地において自然災害による航空・鉄道等の輸送障害が
発生しました。

災害対応方針

● リスク設定と災害時の空港の役割

あらゆる自然災害のうち、仙台空港では「大規模地震による津波の襲来」を最大のリスクとし、他の自然災害にも対応できるよう、国土交通省作成「A2－BCPガイドライン【案】」を参考にBCP体制を見直しました。

仙台空港は空港という公共施設として次の役割を果たします。

- 1** 利用する全ての空港利用者および従業員の安全・安心の確保（人命の最優先）
- 2** 航空ネットワーク機能の維持および機能停止時の早期復旧
- 3** 災害支援拠点としての機能確保

※感染症などの特別な事態が発生した場合は、国などの方針・指示に基づき対応いたします。

災害対応方針

1

利用する全ての空港利用者および従業員の 安全・安心の確保（人命の最優先）

空港利用者や空港内従業員の安全のため、仙台空港ではハード面の整備や訓練による体制強化に努めています。また津波警報時には、空港をご利用のお客さまだけでなく、近隣にお住まいの方などを一時的に受け入れます。

津波避難サイン



緊急時サイネージ



避難訓練



多言語拡声器



備蓄品



- 2 航空ネットワーク機能の維持および機能停止時の早期復旧**
- 3 災害支援拠点としての機能確保**

万が一、災害など空港機能に影響を及ぼす事態が発生した場合においても、被害を最小限化し、空港機能の早期復旧を目指すため、以下の対応を実施します。

- 国および県などの自治体との連携体制構築**
- 交通インフラ関係機関との連携体制構築**
- 非常用発電機や通信機器などの空港機能として必要な代替手段確保**

また、仙台国際空港株式会社代表取締役を本部長とした総合対策本部を設置し、対応にあたります。

BCP体制

● ONE SDJによる役割の遂行

仙台空港では、空港運営に関わる機関と連携し、緊急時には密に情報連携をとることで、「ONE SDJ = 仙台空港一丸」で3つの役割の遂行を図ります。

